

# 学びの広場

地域で学び、活動する  
皆さんを応援します  
北秋田市教育委員会

- 公民館活動 ●生涯学習
- 文化振興 ●学校 ●スポーツ



## 高齢化社会の地域づくりを探る

～“Gちゃん”サミットin北秋田市パート4～

今回で4回目となる「Gちゃん」サミットin北秋田市が、3月13日に中央公民館で行われ、参加者は事例発表や講話・対話型ワークショップなどを通して北秋田市の高齢者問題について探りました。

事例発表では、「おさるべ元気くらぶ」の佐藤俊晃氏が、葛黒火まつりかまくらの復活に向けた取り組みを紹介したほか、元気名人ステージでは、「福田獅子舞保存会」(鈴木浩二代表)による勇壮な獅子舞が披露されました。また、前文部科学省社会教育課企画官の水畑順作氏によるワークショップでは、

高齢者による元気づくりをテーマに参加者60人と、対話による考察を深めました。



▲地域づくりの在り方を探り合ったサミット

## 地域みんなで子どもたちの未来を考える

～“地域学校協働”推進研修会～

北秋田市学校・家庭・地域連携総合推進事業連絡協議会の“地域学校協働”推進研修会が、3月10日に中央公民館で行われ、新しい時代の教育や学校と地域の連携・協働の在り方について学びました。

この日は、文部科学省初等中等教育局参事官付の廣田貢氏が「教育の力で地域を動かす」と題し、中教審答申、馳プランで描かれた目指すべき学校と地域の協働体制について講演したほか、ワークショップでは、学校関係者、学校支援地域コーディネーター、社会教育委員、公民館長など40人が意見交換

を行い、子どもたちがどう育ってほしいか、それぞれの思いや願いを共有しました。



▲講演とワークショップで理解を深めた研修会

## 16人に学士号などを授与

～阿仁生き生き大学 学習会と修了・閉講式～

阿仁生き生き大学(西根邦明学長)の学習会及び修了式・閉講式が、3月11日に阿仁ふるさと文化センターで開かれ、学生37人が出席し、健康で1年間の学習を終えたことを祝いました。

学習会では、講師の前合川公民館長の関源一さんが「学ぶ喜びを力に～一笑健命」と題し、自身の経験をもとに学ぶことの大切さを語り、講演後には、交通安全の旗をまとい和尚さんにふんした寸劇を披露し、会場は笑いに包まれ元気をもらいました。

引き続き行われた修了式・閉講式では、皆勤賞と

修了証書、学士号などの称号が授与され、今年度の学習を締めくくりました。



▲講演で最後の学習会を終えた阿仁生き生き大学

### 高齢者大学受講生募集!

各大学とも5月開講です  
平成28年度高齢者大学を各地区で5月に開講します。受講を希望される方は、生涯学習課又は各公民館へお申し込みください。



#### 【各大学共通】

対象者 55歳以上の方

運営費(負担金) 10000円

#### ○高鷹大学

テーマ

「自分の学びを地域のために」

内容 全体講座など年6回程度(クラブ活動は月1～2回)

※受付は終了しましたが、受講を希望される方はお問い合わせください。

開講 生涯学習課 ☎62・1130

#### ○合川ことぶき大学

テーマ

「仲間との絆を深め、ともに学ぼう」

内容 年8回実施の予定(学習会、移動教室、スポーツレクなど)

受付期間 4月1日(金)～30日(土)

開講 合川公民館 ☎78・2114

#### ○森吉大学

テーマ「共に歩む学びの輪」

内容 年7回実施の予定(講演会、移動研修、学習会など)

受付期間 4月1日(金)～22日(金)

開講 森吉公民館 ☎72・3259

### ○阿仁生き生き大学

テーマ

「仲間と交流しながら学びあおう」

内容 年6回実施の予定(講演会、移動研修、スポーツ交流など)

受付期間 4月1日(金)～26日(火)

開講 阿仁公民館 ☎82・2220

### 生涯学習事業通年講座募集

開講 生涯学習課 ☎62・1130

### ■母と子のわくわく広場

入園前(満1歳以上)の子どもと保護者を対象に、親子で身体を動かし、遊びを通してふれあいを大切にする講座です。おじいさん、おばあさんの参加も大歓迎です。

開催日 毎月第2月曜日

※4月は11日(月)

時間 10時～11時30分

会場 旧中央公民館

※5月以降は北秋田市民ふれあいプラザで行います。

参加料 無料 定員 30人

### 今月のおすすめの本を紹介します

鷹巣図書 ☎62・3311



▽「味つけ冷凍」の作り置き(藤井恵著)

▽羊と鋼の森(宮下奈都著)

▽天才(石原慎太郎著)

▽さりげなく思いやりが伝わる大和言葉(上野誠著)

### ふるさとの文化財

#### 「縄文時代編」

5

前回の予告により、耳飾りを装着した表現のみられる土偶を紹介いたします。

#### ○身体装飾のある土偶(森吉三重鳥B遺跡出土)

土偶は縄文時代の中でも時期、地域により形がさまざま、見つける状態も様でないことから、その用途、使い道もさまざまであったと考えられています。神や聖霊の姿をかたどったとする神像説、身代わりの人形として破壊したとする身代わり説、その姿に生命の誕生と成長、再生を祈ったとする妊婦像説など、さまざまな説が唱えられています。

しかし、土偶の中に当時の縄文人の身体装飾のうかがうことができるものがあります。写真の土偶は高さ24cm、耳が円形の穴として表現されていて、前回紹介したような環状の耳飾りを装着している状態を表したのと思われる。また、首には胸にかかるペンダントが下げられており、頭は結い上



▶身体装飾のある土偶

▽紹介者/北秋田市教育委員会生涯学習課文化係